



福岡県立小倉高等学校

SSH事業目標 ※指定3期目(15年目)

取組み・工夫・改善した点

総合的な探究の時間・新カリキュラムへの対応

- 課題研究ⅠⅡの学習プログラムから、「総探」へ (SSH事業の学習プログラム開発の熱意を継承)
- 主体的・対話的で深い学び実現のための授業と行事の企画 (生徒の深い学びにつながる「しかけ」を職員間で情報共有)

- 高い志を持ち、リーダーシップを発揮する科学者の育成
- ①課題解決型学習などアクティブ・ラーニングの積極的な導入
 - ②全生徒が課題研究活動を実施
 - ③SS研究会(科学部・生物部)において高度な研究活動を実施

課題研究Ⅰ (課題発見・考察)
地域の企業・大学・各種施設を訪問。各HR担任・副任

探究活動の概要

▽学校設定教科「探究活動」の科目として「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」を開設。

▽「課題研究Ⅰ」:第1学年 1単位
地域(北九州)が抱える課題を発見。
情報の収集、データ処理・分析、まとめ。
探究活動を行うための基本的スキルを習得。

▽「課題研究Ⅱ」:第2学年 1単位
15程度のゼミに分かれて探究活動。
自らテーマを設定、観察、実験、調査、データ処理・分析、まとめ。
テーマの設定～実験デザインについて、
担当教員と実現可能性や妥当性について討議を重ねる。

課題研究Ⅱ (食育ゼミ)
JA北九州市農園
チャリティ教育支援機構



課題研究Ⅱ (体育ゼミ)
小倉中央小学校



SSH指定期間継続により学習プログラムを改善

★市役所・大学・企業との連携

「**社会に開かれた学校**」「**地域社会のハブ**」となり、学校及び地域社会を活性化する、という職員間共通認識が育まれた。

★社会貢献の様々な形を理解し、自身の進路の方向性を定めるために

社会科見学・体験のみの行事で終わらせず、1年を通して「探究」する。その経験から学んだことを教員との対話により一層深めていく。

課題研究Ⅰ
水事業タウンミーティング



□北九州市の水事業について調べ、地域社会および国際貢献について探究した。

□一年間の探究を通じて、北九州が誇る産業や技術に誇りを持ち、大人相手にプレゼンできるようになった。

■自身のキャリアを形成する機会ととらえ、その活動を評価される進学先を検討するきっかけとなった。

課題研究Ⅱ (経済・経営ゼミ) ※3年次の自主的探究活動
文化祭展示・フェルトレートの実践



□経済活動について調べ、自らも参加できる社会員献について探究した。

□一年間の探究を通じて、多くの人に協力と賛同を得るための一環として、文化祭で展示・実践した。

■自身の進路の方向性について深く考え、**自分の事として捉え、行動できるきっかけ**となった。

課題研究Ⅱ 夏のユメカツ
各HR担任・副任



□夏季休業中の自主的な活動をクラス内で共有する。

□コンテスト、ボランティア、一日体験、大学のオープンキャンパス等に積極的に参加できた。

■自身の進路について考え、さらにクラスメートから進路について刺激を受ける効果があった。

イマージョン教育指導員校 (H28年度)



□イマージョン教育研究指定校となり、理科・生物での研究授業を実施。

■EASによる授業の進め方は**生徒との対話に重点**が置かれていた。

■物理、数学、地歴、音楽、体育等の他教科・科目にもEASやALTとともに展開される授業が企画されるようになった。

SSH講演会 (H21年度)



卒業生との座談会 (改課後)



□全校生徒参加の講演会。テーマ「高校生は今、何を学ぶべきか?」

第1部:卒業生からのメッセージ (第1部)
第2部:在校生代表とのセッション (第2部)
第3部:HR担任による振り返り

□生徒の多様な進路の方向性について議論できるように、講師は理系2名、文系2名。

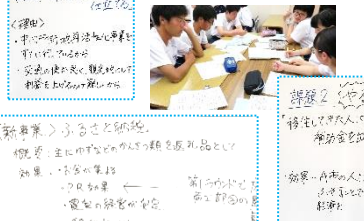
□ワークシートを生徒に配布。心に留まった言葉や考えさせられたことをメモする(インプット作業)。

□第3部で生徒間で意見交換(アウトプット作業)。教員からのまとめ。

■講演会は**生徒との対話に重点**を置いて進行。

■**自分の事として、自らの進路について語る**貴重な機会となった。

課題研究Ⅰ シントレ講座
●NASAコンセンサスゲーム
◆SIMULATON福岡2030



□1年(4月~5月)アイスブレイクとして実施。班員のコンセンサスを得る議論をする。

□宇宙飛行士が月に持っていく道具として優先順位の高いものを選ぶシミュレーションゲーム。

●指導にあたる教員及び体験した生徒には好評。PBLの入門としても使いやすい学習プログラムとなっている。

□1年(10月~11月)立場の違いを踏まつつ、より合理的な市政を高校生の視点で考え、実現可能性について議論する。

□市役所の各部署に分かれ、予算の使い方とその効果・未来の北九州像を実現することを念頭に模擬議案を開き、議論を戦わせる体験する。

◆教員の準備・研修に1~2時間の準備が必要。自然した議論となる。自分の事として思考することができる。

第2回 シントレ講座 3/2 時間

席番号	第1ラウンド (30分)	第2ラウンド (30分)
1	市債 観光地 1億	市債 生涯学習
2	生涯学習 市債 1億	観光地の開発
3	市債 観光地 1億	市債 観光地
4	市債 観光地 1億	市債 観光地
5	市債 観光地 1億	市債 観光地
6	市債 生涯学習 1億	市債 観光地

今後の課題等

- 実施形態
 - ・第1学年からゼミ形式(生徒の興味に合わせて)
 - ・第1学年はクラス単位(探究活動について導入)
 - ・教員1人あたり生徒20名程度の指導(ゼミ導入の場合)
- 探究活動にかかる予算
 - ・生徒自己負担(引率教員の旅費は?)
- 対話的な授業を補助する教具
 - ・まなボード、プロジェクター等
- 職員間の情報共有
 - ・研究授業(見どころのアナウンス)
 - ・授業参観週間(自由に授業を参観できる期間の設定)